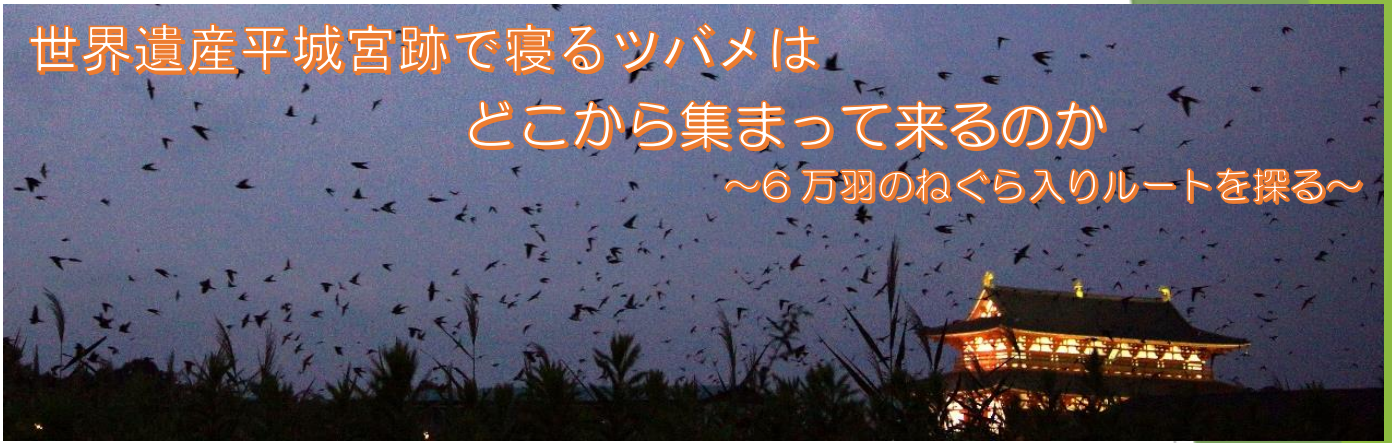


世界遺産平城宮跡で寝るツバメは どこから集まって来るのか ～6万羽のねぐら入りルートを探る～



大極殿ねぐらに集まるツバメ

奈良ツバメねぐら研究部 岩井明子 西田好恵 三輪芳己

■はじめに

奈良市平城宮跡のヨシ原では毎年ツバメの集団ねぐらが形成されます。最盛期の7月下旬から8月には最大6万羽のツバメのねぐら入りが観察され、日本野鳥の会発行の改訂版「ツバメのねぐらマップ」によるとその数は日本最大級です。2012年以降、春の渡りの途中に立ち寄るツバメが「春ねぐら」を形成する時期から子育てを終えすべてのツバメが南下するまでの間にほぼ毎日観察し、ねぐら入り総数などを記録しています。その結果、この9年間で平城宮跡のねぐらに集まるツバメの総数が増加傾向にあることがわかりました(図1参照)。その原因のひとつとして、県内にあった他のねぐらが開発によって消失した影響があるのではないかと考えています。夏の夕焼け空を層になり飛び交うツバメは一体どこから平城宮跡に集まって来ているのか、ねぐらを失ったツバメが本当に平城宮跡に来るのか、ねぐら入りを観察していると様々な疑問が湧いてきます。

2020年の夏はコロナ禍でたくさんの方が集まる観察会ができなくなりました。そこで、この機会に従来の観察会の代わりに家や近所で平城宮跡に向かうツバメを観察して移動のルートを探ろうと考え、STAY HOME企画として、奈良つばめねぐら子ども研究部、日本野鳥の会奈良支部会員などに調査への協力を呼び掛け、延べ118人・47地点の記録が集まりました(図2)。しかし、まだまだ6万羽のツバメのルート解明には及びません。そこで、来季もねぐらへの移動ルートを明らかにするための調査を継続したいと考えています。

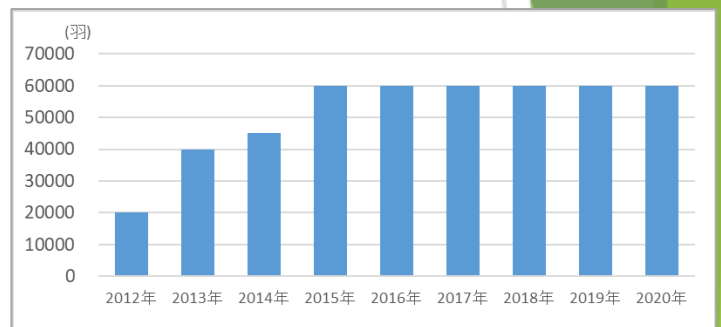


図1 ねぐら入り総数の経年変化

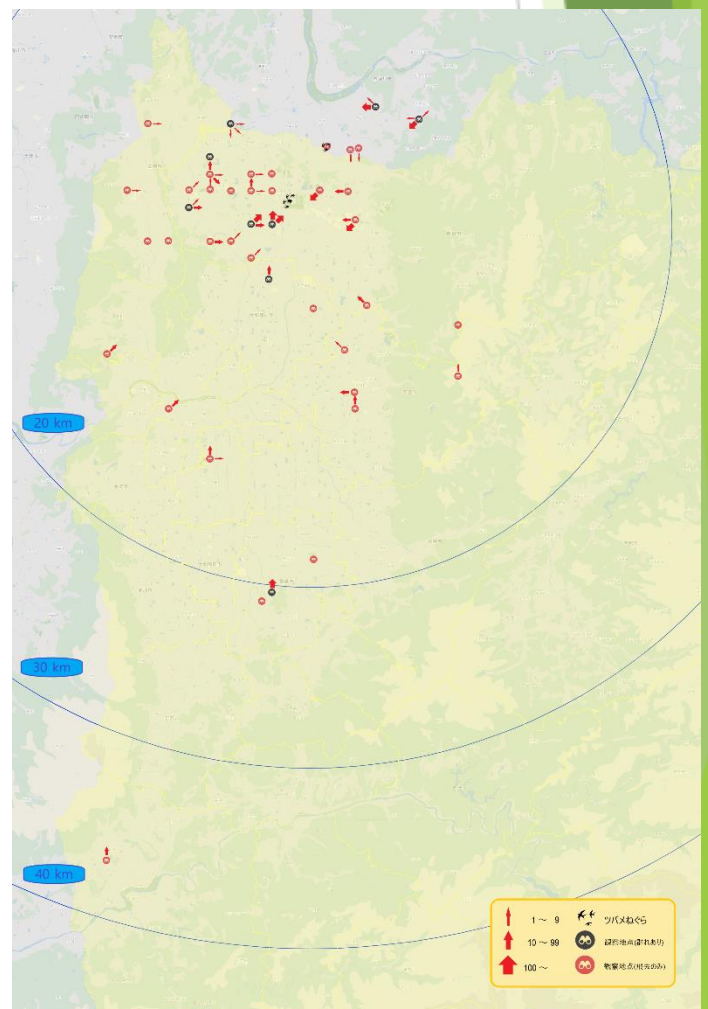


図2 2020年の調査結果

調査地

奈良県下または隣接する地区

調査期間

2021年7月下旬～8月上旬

目的

- ・平城宮跡をめぐりにするツバメの移動経路を明らかにする。
- ・調査結果を蓄積し、行動の傾向や年毎の変化の解析を実施する。
- ・調査に参加することでより多くの人にツバメに対する興味を深めてもらい、将来的にはツバメの生息環境の保全につなげたい。

調査方法

ツバメが移動すると思われる時間帯に奈良県内各地でツバメの行動を観察し、時間・場所・数・飛翔方向を記録する。観察記録はメール、SNSへの投稿等で報告。

2020年度は任意の場所での観察としたが、今回の結果を踏まえて調査地点についても検討する予定。

①観察者	②メールアドレス(*1) または電話番号	③観察日時		④観察場所(*2)				⑤飛んで行った方向(*3)	⑥羽数	⑦コメント(*4)
		日付	時間	3次メッシュ番号	緯度	経度	住所(市町村)			
(記入例) 奈良つばめ	xxxx@aaa.ne.jp	7月25日					奈良市	南→北	10	一旦集合してから飛び去った
観察者A		7月27日	17:00～19:00	51355692			橿原市大谷町の奈良県果樹試験場跡地(スイセン塚古墳)			17時～18時の間は5分～10分置きに1～10羽が飛んできました。 18:15頃が最大で50～80羽?位がスイセン塚古墳上空を旋回して森に消えました。 その後、断続的に数羽～数十羽が集まってきては森に消えました。 18時40分位にはツバメはほとんどいなくなり、日没と同時に大量のアブラコウモリが欽傍山から飛び出してきました。
観察者B		7月31日	17:00～18:40	51356579				→東	8	途中から、又雨が降ってきた。車中調査。視界不良。
観察者C		7月30日	18:25	51357507			奈良県北葛城郡河合町大輪田1930	→北東	10	屋根の上に乗っていた。揃って飛んでいったが2羽だけ再び戻ってきてその後飛んでいった。 付近の家で毎年?巣を作っています。最終的にどこに飛んでいったのか屋根に隠れて確認できませんでした・・・

図3 2020年調査の記録の一部(参考)

支援金の使途

調査への参加を呼び掛けるチラシの作成・調査結果の報告展示にかかる費用や調査地への交通費といたします。

ご支援の程よろしくお願いたします。

